奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和八年九月度　入賞句一覧　投句数　六百十二　句

大堀　武直　選

特選

正座する白寿の伯父の原爆忌　大垣市　酒井　和美

白寿の翁が正座されている。それだけでも彼の佇まいが想像できる。季語「原爆忌」は、何十万ともいわれる犠牲者を追悼し、反核と平和を記念する日。彼に何があったのか。肉親や友人の死、その後の人生、いろいろなことを思い描いておられる。

ふところに婚約指輪ほたる狩　三重県四日市市　藤田　勝民

婚約指輪は、男性の結婚への決意や、彼女への愛情を形にしたものである。それを渡すタイミングをいろいろ考えたのであろう。季語「蛍狩」は、夏の夜の納涼的な遊びで、蛍の光の明滅が美しい。蛍もプロポーズしているのだ。ほほえましい一句。

反抗期真面目に祖父の墓洗ふ　大垣市　安田　むつこ

季語「墓洗ふ」は、お盆に先祖の墓に詣で、周りを清掃し、墓石を洗い清め生花や線香を手向けること。親には反抗的でも、祖父母には素直になれることが多い。かわいがってくれた祖父を思い、心を込めて作業している子。それを見ている親。

秀逸

生身魂一眼レフを携へて　揖斐郡池田町　小川　智恵子

炎天に真向う対の鬼瓦　愛知県一宮市　上島　祥子

鉦の音に子等のあつまる地蔵盆　不破郡垂井町　児玉　信子

草取りて無沙汰を詫びる墓前かな　大垣市　久保田　悟義

亡き夫の話を孫と遠花火　不破郡垂井町　竹嶋　富美子

一灯の他は闇なり虫の秋　養老郡養老町　佐藤　咲楽

一兵の供花なき墓や終戦忌　東京都江戸川区　羽住　博之

目で合はす祭り囃子の音はじめ　三重県四日市市　後藤　允孝

被災地の家族揃って墓洗ふ　三重県鈴鹿市　松井　政典

からくりの如く転びぬ虚栗　大阪府堺市　椋本　望生

入選

遠雷や二人を少し近くせり　埼玉県所沢市　坂井　傑

目が合った向日葵が咲く黄昏に　大垣市　川瀬　里茉

追分にしばし佇み秋のこゑ　養老郡養老町　田中　紫香

広き田に広き空あり秋の風　大垣市　臼井　秀子

鬼灯や隠し通せぬことのあり　東京都新宿区　花澤　ちいこ

道祖神の並ぶ石段夏木立　大垣市　平野　きぬよ

踊りの輪アニメソングに揺れてをり　大垣市　髙木　歌佐

島唄は下船の合図沖縄忌　東京都世田谷区　関戸　信治

舟形の雲行く秋の行者堂　大垣市　大橋　浩美

橋一つ渡りて秋の風に会ふ　東京都狛江市　椎野　一恵

うしろより吾を追い越す秋の風　大垣市　宮脇　和子

敬老日祝ひの膳に昼の酒　兵庫県神戸市　岸下　庄二

鳥の名を教わっている帰省かな　千葉県松戸市　鹿野川小舟

言い逃れするたび古酒を酌む夫　埼玉県越谷市　小田　毬藻

冷酒や少し味濃き卵焼き　広島県福山市　中常　かつたろー。

選者吟

千人の繋ぐ聖火や爽やかに　武　直

